

3 仏教の自然観

【全3回】／開催方法：オンライン

わた なべ しょう ご
渡辺章悟

東洋大学名誉教授



受講料	会員料金：¥7,000	早割価格：¥6,000(納入期限：6月17日)
-----	-------------	-------------------------

【日程】 【全3回】

6月24日(水) 10:15~11:45

7月1日(水) 10:15~11:45

7月8日(水) 10:15~11:45

■受講に必要なもの

[テキスト] レジユメ配布

・講座の目標

現在の世界は環境の悪化がひっ迫し、危機的な状況になっている。この私たちの取り巻く環境世界を、古代から現在に至るまでの人類の自然観を中心に考察しながら、現代の環境問題を見直し、仏教の自然観の特性と可能性について明らかにする。

・講座の内容

「自然」といってもその捉え方は時代や地域によって大きく異なる。とくに欧米の自然観は、キリスト教以前と以後、産業革命と近代化などによって、大転換がもたらされ、自然観の傾向も大きく変容し、現代の文明に決定的な影響を与えている。さらに、現在の環境問題もその流れの中にあることも指摘されている。

一方、東洋の自然観は、環境あるいは自然と人間が同質の傾向をもつが、現代社会ではそれが逆に大きな環境問題も抱えることになる。

本講座では最初に、東洋の思想や宗教に共通する自然(じねん)としての環境、モノを生み出す自然という観点から、東洋の伝統的自然観について考察する。その中心になるのは「仏教の自然観」である。実際の講義内容としては、初期仏教から大乘仏教、更には日本仏教に流れる自然観の特性を指摘し、仏教は自然をどのように捉えてきたのかについて分析する。さらに、その最後に東南アジアに見られる「樹木の出家式」を取り上げ、現代仏教の課題とその取り組みについて解説する。

・全三回の主題

1. 自然の比較哲学 —東と西の自然観—
2. 仏教の自然観 —初期仏教から東アジアの仏教まで—
3. 東南アジアの仏教にみる自然の保護と保全(樹木の出家式)

【参考書】

「仏教の自然観」(『仏教としあわせ』【武蔵野大学シリーズ16】) 著者：渡辺章悟 出版社：武蔵野大学出版会 出版年：2025